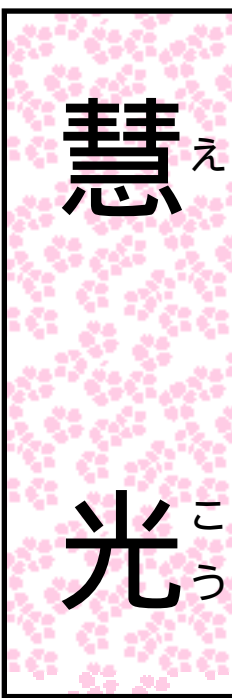




梵天、白もいいけど、ピンクもいいですね (9日撮影)



金光寺寺報  
第182号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

まどえる身にも信あらば 生死のままに涅槃あり

今月の法語は、「正信偈」の「感染凡夫信心発証知生死即涅槃」〔感染の凡夫、信心を發すれば、生死すなはち涅槃なりと証知せしむ。〕

のおこころを詠われたものです。

これは、煩惱に染まり惑う凡夫であっても、ひとたび他力の信心をおこしたならば、迷いの身であるままで、やがて浄土に往生して「生死すなはち涅槃なり」という、仏のさとりを開くことができる、ということです。私たちは浄土に生まれどう変えられていくのか、言い換えれば浄土往生の相状として、私たちの側から他力のはたらきをどのように受け止められていくのかということが、ここに示されています。

「感染の凡夫、信心を發すれば」とあるのは、信心を發するといっても、凡夫の起こす信心ではなく、あくまで信心をいただくことであります。

信心をいただくとは、私たちにおいては仏さまの智慧の眼をいただくことでもあります。仏さまの智慧の眼をいただければ、生死の世界は、涅槃の世界と別ものではなく、生死の世界は涅槃の世界に包まれていたということを知らされるということではないでしょうか。煩惱の衆生は、煩惱の我が身であることを把握できません。自己中心的な考えしかできない私たちは、どこまでも自分の都合でしか考えられないものです。このような独善的な日常を送り続けていく中で、迷い続け苦しんでいるのがこの私たちの相であります。煩惱具足の我が身が、煩惱具足であることを気づかしめられるのは、ほかならない如来大悲の光明に照らされたらばこそであります。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

8月 29日(月) 午後  
9月 15日(木) 終日  
30日(金) 終日  
10月 15日(土) 午後  
16日(日) 終日

7月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2016年 7月19日寂 満80歳  
東光寺 橋本 満喜様  
2016年 7月23日寂 満90歳  
東光寺 橋本 壽美子様

ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
8月9日現在 アクセス数 77,747人

最近、境内地にとりまわるとの残骸があります。おそらく、たぬきがどこかのお宅の、もうそろそろ食べ頃になったものをちぎって当山まで持ってきたか、被毒にやられてお宅には食毒の毒なのですが、それは見事な食べつぷりです。実は残りもつもなく、私たちでもあれほどの食べ方はできないなと思えるほどのものです。でも、食事の場所が何故当山の境内地、それも本堂の入り口に近しいところなのかと思うことです。オリンピックが、高校野球が始まり、テレビを見るのに困ってしまします。それだけでなく、スポーツは結果にこだわるのも好き、そして熱が入り、声が大きく、応援するので、どこかの場所で見ていると、どこか別の場所で見ていると、テレビを買ったのは私なのに、そういえば、柳の「建てたのはじいちゃん、のにはあちゃん」と、孫が言うことへのボヤキの句を思い出しました。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

塵積もりて

「百人を、五六人して、おいまわし」  
お正月の風景を表わした川柳です。やはり、お正月には、百人一首がよく似合うようです。

子どもたちは、よく「いろはがるた」をしたものでした。「塵も積もれば山となる」というのがありましたね。わすかな物でも、積み重なれば、高く大きなものとなることの例えなのですが、『広辞苑』によると、これは「大智度論(だいちどろん)」という経典に基づくとあります。そこで、その経典を見ますと、「微塵(みじん)を積みて山と成(な)す」とありました。仏教では、物質をもつとも微細に分割したものを「極微」といいます。現代的には、原子と

いつてもいいでしょう。一極微を中心し、上下四方の六方に極微が集めた一団を「微塵」といいます。最小の物質とでもいいましょうか。「粉微塵になつた」という、あの微塵です。そんな小さな微塵も、積み重なると山となるのです。年のはじめにあたり、心得ておきたい文句ですね。  
(本願寺出版社発行 辻本敬順著  
「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART 1 から)

住職ひとりごと



# 暑いお盆に思う

うだるような暑さが続きま  
すね。八月に入ってほとん  
ど  
の  
日  
が  
真  
夏  
日  
で  
す。  
朝、境  
内  
の  
落  
ち  
葉  
掃  
除  
を  
終  
え  
る  
と  
汗  
び  
っ  
し  
よ  
り  
に  
な  
り  
ま  
す。  
毎  
日、掃  
除  
後  
の  
シャ  
ワ  
ー  
が  
習  
慣  
に  
な  
り  
ま  
し  
た。

昨年七月後半から今年の七  
月後半にかけてたくさんの方  
がお亡くなりになりました。  
今年の初盆法要は二十四軒で  
す。できれば少しは涼しけれ  
ばと思っっているのですが、猛  
暑の覚悟はしています。

先日、平成二年三月一日に  
本願寺出版社から発行された  
大学時代の恩師村上速水先生  
執筆の「生死出づべき道」と  
いう冊子を見つけ読みました。  
内容が分かりやすくページ数  
も二十九頁と無理なく読める  
分量でしたから、すぐ読み始  
め、あつという間に読み終え

ました。

とても法味あふれる先生の  
お人柄が文面ににじみ出た冊  
子でした。  
その冊子の最初の方に、源  
信和尚の『往生要集』のご文  
がありました。

私たちは、頭には霜や  
雪とみまごう白髪を戴き  
ながら、心は浮世の塵に  
染まり、この一生は終わ  
ろうとするのに、いろい  
ろな望みは尽きない。と  
うとう日の照るこの世を  
離れ、ひとり黄泉の底に  
入る時は、数百由旬も燃  
えさかる猛火の中に落ち  
て、天に呼び地を叩いて  
嘆いても、何の役にも立  
たぬのである。

『聖典意訳七祖聖教』

下巻、五〇頁

このご文を読みながら、明  
年三月九日で満六十歳になる  
うかというこの私、頭は白髪  
とまではいかないが、ずいぶ  
ん白髪が増えていて、それに  
もかかわらず、浮世の塵に心  
は染まり、欲望は減るどころ  
かますます増えていくような  
状態で、まさに娑婆の縁尽き  
た後の行先は、三悪道のいず  
れかだなど考え入りました。  
しかし、先生は、

「死」は死んで無になる  
寂しい世界ではなく、新  
しい光明の世界に生れ出  
ること、つまり、無量光  
明土に生まれることであ



り、さまざまな活動を続  
ける世界です。

とお示しくださっています。  
貪欲・瞋恚・愚痴の三毒の  
煩惱に酔って日暮らしをして  
いるこの私たちを阿弥陀さま  
は「必ず救う その身をまか  
せよ」と呼び続け、「そのま  
までいいぞ 生涯離すことの  
できない煩惱は往生の時に私  
があなたの身から取り払うぞ」  
とはたらき続けておられます。

阿弥陀さまのお呼び声を疑  
いなく信じ、念仏申させてい  
ただき念仏無礙の「生死出づ  
べき道」を歩む日暮らしをと  
改めて思ったことでした。

お盆の時期だけでなく、い  
つも私たちと一緒に居てくだ  
さる懐かしい方々ですが、お  
盆という仏教行事のご縁をい  
ただくなかで、あらためて、  
「ああいつも一緒だな 私の  
ためにさまざまな活動をし続  
けておられるな」と感じる  
ことのできる二〇一六年のお  
盆でありますようお念じ申し  
上げます。

# 法語の世界

〈原文〉

世間の物語ある座敷にては、結句法義のことをいふこ  
ともあり。さやうの段は人なみたるべし。心には油断  
あるべからず。あるいは講談、または仏法の讃嘆など  
いふ時、一向に物をいはずること大きな違ひなり。  
仏法讃嘆とあらん時は、いかにも心中をのこさず、あ  
ひがたひに信不信の義、談合申すべきことなりと云々。  
(蓮如上人御一代記聞書 百九十六)

〈現代語訳〉

「世間のことを話し合っている場で、かえって仏法の話が  
出ることがある。そのようなときは、われ先にものをいわ  
いで人並みに振舞っておきなさい。どのような考えの人がい  
るかかわらないのだから、注意をおこたつてはならない。け  
れども、念仏の仲間が集まって、お聖教の講釈を聞いて学ぶ  
ときや、仏法について語りあったりするとき、少しももの  
をいわないのは、大きな誤りである。仏法について語りあ  
う場では、心の中をすべて打ち明け、互いに、信心を得てい  
かないかについて語らなければならぬ」と仰せになりました。

## 伝灯奉告法要に参加しませんか

明年四月二日から二泊三日で専如門主法灯継承を  
奉告する伝統奉告法要に高千穂組から団体参拝で参  
加しますことはすでにお知らせしていますが、八月  
九日現在、申し込みが八人です。  
どなたでも参加できます。人数は住職を含んで当  
山からは十名の割り当てになっています。参加を希  
望される方は早目に金光寺までお申し込みください。  
申し込まれた方に詳細の案内をお届けします。

## 二〇一六年秋季彼岸会法要のお知らせ

日時 九月二十二日(木) 午前十時  
場所 金光寺本堂・門徒会館  
勤行 正信念仏偈(草譜) 和讃六首引き  
講師 未定  
持参品 念珠・門徒式章・お経本  
その他 彼岸会法要は仏教婦人会の例会になつ  
ています。仏教婦人会の皆さんの参詣を  
お待ちしております。  
一般の門信徒の皆さんの参詣もお待ち  
しております。